

# 学ぶ楽しさ、分かる喜びを実感できる授業づくり ～ 主体的・対話的に学び合う国語科書写学習を通して ～

観音寺市立一ノ谷小学校  
教諭 藤田 直代

## 1 はじめに

新学習指導要領では、「我が国の言語文化に関する事項」に書写に関する事項が位置付けられている。文字を書く基礎・基本を系統的に指導し、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重視されている。

一方、本学級の児童（2年生24名）の中には、文字を書くことに苦手意識をもち、実生活においてノートをとったり日記を書いたりすることに消極的な児童がいる。技能的側面の強い書写学習において、お手本の文字をまねることが上手な者が高く評価されるだけの授業では、文字を書くことが苦手な児童にとってはますます文字を書くことへの抵抗感を強めることになりかねない。

そこで、どの児童も学ぶことを楽しみ、分かったと感じ、主体的・対話的に学ぶ授業をめざし、指導方法の改善を図る必要があると考えた。

また、文字を書く場面は他教科の学習を含め日常生活に多く存在する。学んだことを生かす機会が多いことは、児童が達成感を味わい学習意欲を高めることにつながりやすいと考えた。

## 2 実践の内容・方法

— 第2学年「文字の中心」「文字の形」における実践より —

(1) 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を味わわせる問題解決的な学習過程の工夫

① **つかむ**段階（試し書きや日常の書字活動における課題に気付く）

<字形の整っていない文字の提示>

実生活で児童が書いた文字の中から、文字の中心の整え方に課題が見られる文字を提示した。児童は、提示された文字を見るとすぐに課題を見つけようとし、課題のある部分を指し示しながら字形が整っていない理由を具体的に説明することができた。理由を説明することは、字形の整え方についても触れることとなり、中心の整った文字を書くには、「文字には中心となる画がある」「中心となる画とその他の画との位置関係が重要である」という解決の見通しをもつことにもつながった。



【字形の整っていない  
文字の提示】

② **考える**段階（文字の原理・原則について考える）

<分解文字の活用>

中心となる画とその他の画との位置関係を調べる時に、分解文字を使って筆順に従い一画ずつ置いていくことで、「文字の中心となる画」と「中心を整えるために大切な画」があることが分かった。画を動かすことができるので、一つ一つの画の書き始

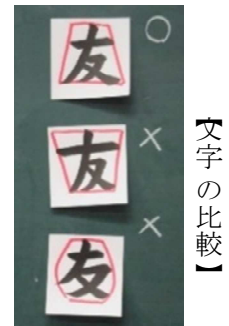
めの位置も考えることができる。また、周りで見ている児童も「もう少し右」などと自然と声が出て、話し合いに参加しやすい。そのため、分解文字をグループで話し合う際にも用いた。個々の考えを表現しやすく、活発に意見を交わす児童の姿が見られ、「画の真ん中」「画と画の幅」等の中心を整えて書くためのコツとなるキーワードを見つけることができた。



【分解文字の活用】

<数種類の字形で書いた文字の比較>

文字の形に視点が向くように、「下が広い」「上が広い」「中が広い」の3種類の字形で書いた作品を提示した。複数の提示により比較思考が働き、正しい字形はどれかと話し合いが始まった。文字を囲んで形を確認したり、教科書の文字と比べたりして、正しい字形を確認することができた。



③ **高める**段階（原理・原則を習得・活用し、「分かる」「できる」を実感する）

<文字の仲間分け>

1 2個の文字カードを提示し、3つの字形に仲間分けさせた。児童は、仲間分けの活動に意欲を示し、活発に意見を交わしていた。

また、文字カードを操作しながら仲間分けすることで、文字の幅を決めている一番広い部分に着目した発言が見られ、文字によっては「一番長い画」を見つけると字形を整えやすいことに気付くことができた。



【文字の仲間分け】

<カラーセロハンを使った字形の確かめ>

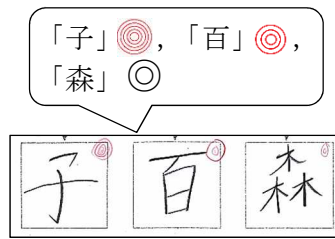
字形を型どったカラーセロハンのシートを用意し、文字の練習の時に、自分の書いた文字の形を確かめられるようにした。一番長い画をどのくらいにすればよいか視覚的に明確となり、字形の整え方が分かりやすいため、文字の一つ書くたびに字形を確かめようとする姿も見られた。そして、自分の文字の字形が徐々に整っていくことも実感しやすくなった。



【カラーセロハンを使った字形の確かめ】

<相互評価する場の設定>

授業終末のまとめ書きについて、自己評価に加えて、相互評価の場を設定し、ペアで評価し合ったり、全体の場で個の伸びを紹介し称賛したりする活動を取り入れた。友達に褒められることで、「できた」と実感し、より達成感、満足感を感じることができた。



【友達による評価】

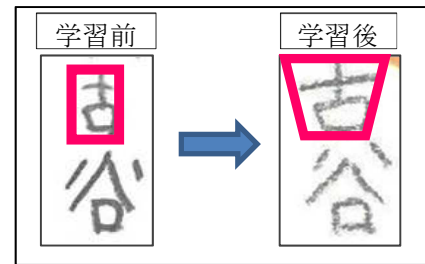


【全体の場での評価】

④ **生かす**段階（書写で学んだことを日常に生かす）

<自分の名前の漢字について考える>

教材文字で原理・原則を学んだ後、自分の名前の漢字について考える時間を設定した。「古谷の『古』は上が広い形。1画目を長く書こう。」等と、字形や上手に書くコツについて考え、学んだことを生かそうとする姿が見られた。



【原理・原則の活用（名前の漢字）】

(2) 書字活動を支える取組

① 合言葉は「グー、ペタ、ピン、トン」

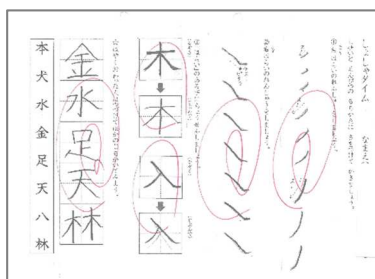
正しい姿勢の習慣化をめざして全校で取り組んでいる毎朝の腰骨タイム、授業中に文字を書いたり話を聞いたりする時、給食を食べる時には「グー、ペタ、ピン、トン」と唱え、正しい姿勢を確認している。低学年の児童にとって、イメージを音声化することは、言葉で説明するよりも覚えやすく、習得が速い。

② 書写タイムでの基礎・基本の練習

毎月2回、朝のドリルの時間を利用して書写タイムを設定し、文字を書くために大切な指の動きや「はらい」「はね」などの運筆の基礎・基本の練習に取り組んだ。



【ワークシート基礎編】



【ワークシート応用編】



【書写タイム】

③ 水書コーナーの設置

水筆ペンを使った水書ができるコーナーを作り、休み時間に自由に使えるようにした。鉛筆でしか文字を書いたことのない児童は、筆で書くことに高い関心を示し、たくさんの児童が水筆で文字を書くことを楽しむ姿が見られた。

また、鉛筆よりも「はらい」や「はね」の形がよく分かり、ひらがな50音のお手本をなぞりながら、これまで学んだことを生かして書こうとしていた。



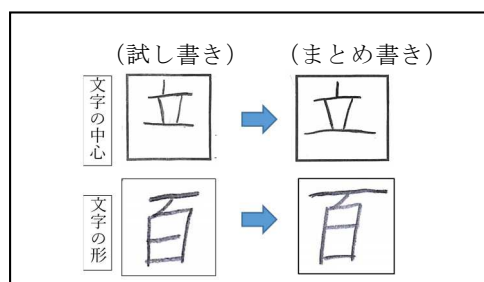
【水書コーナー】

### 3 実践の成果

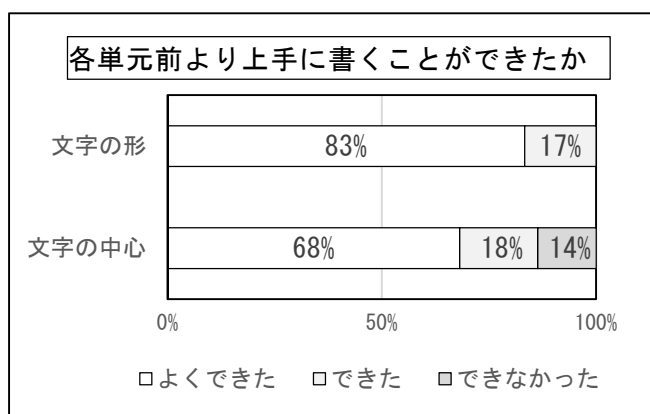
アンケートの結果を見ると、ほとんどの児童が各単元前よりも上手に書けたと答え、達成感を感じている様子が見られた。文字を比較・仲間分けしたり、分解文字を操作したりする等の活動を取り入れ、児童自らが文字を整えるための「原理・原則」と、上手に書くためのコツを見つけるような学習指導を進めたことにより、書写の得手不得手に関係なく、多くの児童が積極的に発言し、意欲的に授業に参加することにつながった。

自ら上手に書くコツを見つけることで、そのコツを使って「書いてみたい」という意欲も高まり、練習やまとめ書きでは真剣に取り組む様子が見られた。

また、連絡帳やお礼の手紙など他者へ見せることを前提とした表現物を作成するときには、以前よりも一文字一文字丁寧に書こうとする様子も見られるようになった。



【児童の文字の変容】



【児童アンケートの結果】

### 4 普及させたい取組と期待される効果

今回の実践においては、文字を整えるための「原理・原則」と、上手に書くためのコツを見つけることを主目的とした問題解決的な書写学習を行った。それにより、どの児童も学習への意欲を高め、主体的に自分の考えを発表し、練習に取り組むことができた。そのことが一人一人の伸びにつながり、達成感を感じさせることができた。このような学習を続けることで、自己を表現する手段の一つである「書くこと」への抵抗感を減らすとともに、表現することに対する意欲を高めることにつながられるのではないかと考える。そして、「分かった・できた」という実感の積み重ねが、児童一人一人の学習意欲の高まりにつながることを期待される。

### 5 課題及び今後の取組の方向

児童は、多くの文字を学習しているが、書写学習で扱う文字は少なく限られている。そのため、日常生活の書く活動にどのようにつなげるか、指導の工夫が必要である。また、第1・2学年での硬筆書写の学習においても水筆ペンで書く活動を授業に取り入れるなど、第3学年で始まる毛筆書写への移行を意識した学習指導をしていかなければならない。毛筆書写の学習では、第1・2学年で学んだ文字を整えるための「原理・原則」と、上手に書くためのコツを使って書くなど、スパイラル的に学習を積み重ねることで、書写の能力の基礎・基本をより効果的に定着させることができるのではないかと考える。今後も、児童が「分かる・できる」と実感し、学ぶ楽しさをより感じることを期待する授業をめざしていきたい。